

〇〇もんずら



画：前田守一

ならぬことは...

仕の掟じゆう おきて

- 一つ、年長者の言ふことに背いてはなりません
- 二つ、年長者にはお辞儀をしなければなりません
- 三つ、虚言を言ふことはなりません
- 四つ、卑怯な振る舞いをしてはなりません
- 五つ、弱いものをいぢめてはなりません
- 六つ、戸外で物を食べてはなりません
- 七つ、戸外で婦人と言葉を交へてはなりません

ならぬことはならぬものです

六才から九才までの会津藩士の子供達（男子に限る）は、町ごとに十人前後でグループを作った。この集まりを「仕」と呼んだ。十才になると、藩校日新館に入る。入学前に会津藩士の心構えを身に付けた。

幼い子供たちが自らを律するために、子供達だけで考え出された「仕の掟」。仕長が申しきかせる「お話」。子供達だけで考え出された制裁もあった。

なぜ、子供達だけで考えられたか。地域社会が子供達のみき教師として機能していたから。父・兄・年長者が範を示していた。【会津物語より】

NHK大河ドラマ『八重の桜』。新政府の攻撃にさらされる会津若松城の中でスペンサー銃を手に抗戦していた山本八重の姿以上に記憶に残っているのが、『ならぬことはならぬものです』という文句。「いけないことはいけない」「問答無用」で、なぜそうなのかという説明はありません。自分を律する重要な行動原理だから、『ならぬことはならぬものです』と価値観を押し付けたのでしょうか。自分を律することは、相手を思いやることにつながっていききました。

さて、現代は？ ながら運転はやめましょう。制限速度を守りましょう。挨拶をしましょう。規則正しい生活をしましょう。ごみのポイ捨てはやめましょう。バランスの取れた食事をしましょう。.....

『ましよう』の連発です。正しいこと、重要なことをきちんと伝えるにはどうしたらよいのか、脱『ましよう』の方法はないのかと思う時があります。そんな時『ならぬことはならぬものです』を叫びたくなるのです。

〇〇捨てしている人に『ならぬことはならぬものです!』
 〇〇法を無視する人に『ならぬことはならぬものです!』

